



原町小だより「はらまち」

川口市立原町小学校
全校児童数401名

「なかよく」「かしこく」「たくましく」

HPアドレス <http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/haramachi-e/>

いつか、「あの日は無駄ではなかった」と思えるように

校長 加田 明

「『これから』の時代を生きる君たちへ」という本の中でイタリア・ミラノのヴォルタ高校のドメニコ・スキラーチェ校長は「いま、最も大切なのは、人間らしい思いやりを忘れないこと」と語っています。

また、日本の子供たちへ、次のようなメッセージも届けています。

この危機を乗り越えたとき、皆さんはきっと変わっていることでしょう。よい方向に変わることができるかもしれません。もっと自覚を持った、もっと素晴らしい人間になることができるかもしれません。本を読み、考えることで、この孤独な長い日々を無駄に失われた時間にせず、有益で素晴らしい時間にしましょう。イタリアの生徒たちにとっても、日本の生徒たちにとっても、そうあってほしいと思います。皆さんの幸運を、心よりお祈りいたします。(ドメニコ・スキラーチェ)

小学生には難しいことかもしれませんが、まずは私たち大人がこの先を見据えて、しっかりと子供たちを導くことが必要であると考えます。

さて、学校では子供たちが「新しい約束」の下での学校生活を送っています。お友達と手を繋いで、顔を寄せ合ってなかよくおしゃべりをするのができないなか、子供たちに「他者との交わりは怖いもの」という意識がつかぬよう配慮もしています。

6月の学校再開より各クラスでは「構成的グループエンカウンター」(自己理解・他者理解のためのエクササイズ)による学級活動を行ったり、「原町小新しい遊び方シリーズ」という掲示物を作って、子供たちがソーシャルディスタンスを保ちながら仲良く遊ぶ方法を紹介したりしています。25分休みや昼休みは教室と校庭を半数ずつに分け、教員もそれぞれに分かれて見守り(子供たちと一緒に遊んでいる教員が多いですが…)を行っています。

道徳の授業では「わるいのはだれ?」という伊万里市教育委員会(伊万里市の小学校教諭)が作成した新型コロナウイルスに関わる「いじめや差別」をテーマとした紙芝居(動画)を使って授業を行ったクラスもありました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な行事ができなくなったことに関しては、子供たちが楽しみにしていた行事を減らすだけではなく「それならば、何ができるか?」という発想の転換を行い、新たな可能性とアイデアを出し合って潤いと実りのある教育活動を実践していく方法を模索しています。

全校児童を集めての集会ができないので、「1年生を迎える会」に代わり「1年生の入学を祝うメッセージ動画」を各学年で作成し、1年生は各教室で視聴しました。各学年児童が作ったメッセージ動画はなんと微笑ましく、1年生を迎え入れる温かい気持ちが伝わってきました。

これからの不安な時代を乗り越えていくためには、心で新型コロナウイルスに負けないようにしなければなりません。この長い休校も無駄に失われた時間と捉えず、前向きに考えていくことの大切さ、いつか「あの日は無駄ではなかった」と思えるように生きることの大切さを子供たちにも感じさせていきたいと思えます。

学校のあちこちにはソーシャルディスタンスを保つための掲示が貼ってありますがその下には「体は離れても、心はそばに」というメッセージが書かれてあります。原町小学校の子供と教員、そして子供同士の心はいつも繋がっており、力を合わせることでどんな難局も乗り越えていけると信じています。

